

あなたをプラスの人生へと導く

しなんげ

1



あなたの初めは小さくあっても
あなたの終りは非常に大きくなるであろう。
(ヨブ記 8:7)

2017

CONTENTS

- 2 ブザー、義人の手／イ・ヨンフン牧師
- 4 ヨンサンコラム……………
感謝します／チョウ・ヨンギ牧師
- 6 メッセージ ………………
唇で告白する御言葉の威力／志垣重政牧師
- 14 信仰の明文化を成し遂げますように⑨……………
主のしもべによく仕えなさい／イ・ヨンフン牧師
- 18 出会いの祝福……………
「生命の力」に出会う／カン・サン牧師
- 21 主と歩く……………ヘンリー・グレーバー牧師
弱さを強者に勝たせてくださる神様
- 25 我が人生のプラス……………
 - ・とりなし祈りに答えられた奇跡の神様／ホン・ソンピョ
 - ・值打ちのない私を召してくださった神様／イ・キョンラク
 - ・すべての事について感謝しなさい／ホン・スチョル
 - ・感謝こそが我が人生の活力剤／ファン・ウォンジュン
- 37 特別寄稿 | 11月8日、アメリカ大統領選挙とキリスト教 ……
アメリカ大統領選挙と韓半島、そしてクリスチャンの孤立
／ソン・ヒョンギョン牧師
- 43 チ・ヨングンの世を読む……………
答えは親である
- 47 クリストチャンの財政管理……………チョン・ビヨンイル
クリスチャンの遺産と相続
- 50 統一時代を開く……………
資本主義は悪いものですか？／ベン・トレイ牧師

この「しなんげ」は、おもに韓国版信仰界 11月号より抜粋して、翻訳し再構成したものです。
ちなみに、聖書の御言葉は「口語訳」を引用しています。

ブザー、義人の手

「炎と煙に焼けた一人の若者の手」——この世の中で真に美しい手であると、先日メディアで称賛を受けた「義人の手」です。

ある日の夜明け、ソウルの、ワンルームが 21 室ある 5 階建ての建物が火事になった時、28 歳の若者がガスによる窒息で亡くなりました。実は、火が出たとき若者は、最初に炎を発見し、建物を出て 119 に通報し、再び建物に飛び込んで行きました。夜明けに眠っている隣人を起こすためでした。若者は、火事のことを知らずに眠っている隣人を急いで起こすため、その危機の状況で階段を駆け上がっていちゃいちブザーを鳴らしました。そして、叫びました。火事になったから早く出ろと。若者の犠牲のおかげで、住民たちは急いで避難することができました。しかし、若者は 5 階の屋上の入口付近にて有毒ガスにより窒息、病院に搬送されてから 11 日後に亡くなりました。

その犠牲の手、焼けた手を、病院のスタッフが携帯電話で撮り、こ

れがマスコミを通じ、世に知られるようになりました。こんなに美しい手があるのでしょうか？その手がなかったら、多くの人々は、炎の中で死んでいったはずです。その犠牲がなかったら、惨事が続いていたはずです。義人の手は美しかったです。非情な時代、索漠たる時代に、それでも、このような美しい人がいて、私たちに希望を与えてくれます。

世の中には、醜い手が多いです。醜い指差しも多いです。人々は手で殺人をし、暴力も行い、盗むときもあります。人を呪うときに指差しをしたりもします。神は人間の手をどれほど美しく創造されたでしょうか。文明の発達は、手から出てきました。殺傷と呪いが飛び交う昨今、「手の創造の意味」を回復しなければなりません。施し、慰め、生かし、助けてあげる手にならなければなりません。「あなたの手に善をなす力があるならば、これをなすべき人になすことをさし控えてはならない。」(箴言 3:27)。





「何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。」(ピリピ 4:6)

隣人からプレゼントを渡されたり、招待されたりした時、とりあえず一回位は遠慮してプレゼントを受け取ります。しかし、西洋ではこの遠慮の美德は通じません。もしこの美德を發揮すると、受け取る意思がないと思われて、これ以上は勧めません。

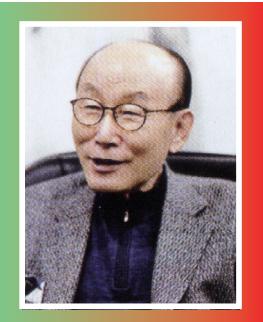
つまりプレゼントを渡されたり、招待されたりした時、「ありがとうございます」と言うのは、結果的に「好意を受け入れます」という意味になります。

神様も一緒です。聖書には32,500個の約束の御言葉があって、私たちが感謝の心で受け取ると、また私たちが受け入れる準備さえあれば、その約束の御言葉は私たちの生活の中で成就されるのです。

ですから私たちは聖書の御言葉を読んで、心の中に響いて来る約束の御言葉が見つかった時、「神様、感謝します」と言って、受け入れなければなりません。それは、「お父様、私は受け入れますので下

チョウ・ヨンギ 牧師

単一教会として世界最大規模であるヨイド純福音教会の元老牧師として仕えている。筆者は、美しい社会作りへの参加と、真の福祉社会のために、キリスト教精神を基にして設立された「ヨンサン・チョウ・ヨンギ慈善財団」の理事長として、第二の働きを繰り広げています。



さい」という受諾の意味があります。その時、神様は皆さんに祝福を注いで下さいます。

但し一つ、そのように感謝の祈りを捧げたにもかかわらず、心の中に信仰と確信が立たない時は自分自身を顧みる必要があります。まだ悔い改めてない罪や他の人を訴える気持ちがあるか反省しなければなりません。悔い改めてない罪は私たちに「私は祝福を受ける資格がない」という後ろめたさを植え付けます。私たちは既にイエス・キリストの十字架で完全に洗われ、日常生活で犯す罪も悔い改めるだけで、都度赦されます。

私たちの感謝の祈りが神様に到達され、効力を得るためにまずは罪責感から自由にならなければなりません。それで私たちの心を「私は神様の祝福を受ける資格がある」という向きに変えなければなりません。イエス様の血で買われた、神様の子供であるから、神様の嗣業を遺産として受け継げるという堂々とした考え方と姿勢を持たなければなりません。謙遜と罪責感を混同してはなりません。

その後、イエス様の御名で求め、求めたものを受けたと信じ、「感謝」の心で最後を締め括り、常に感謝すると、皆さんの生活は神様の予備された祝福で充満に満たされることでしょう。†

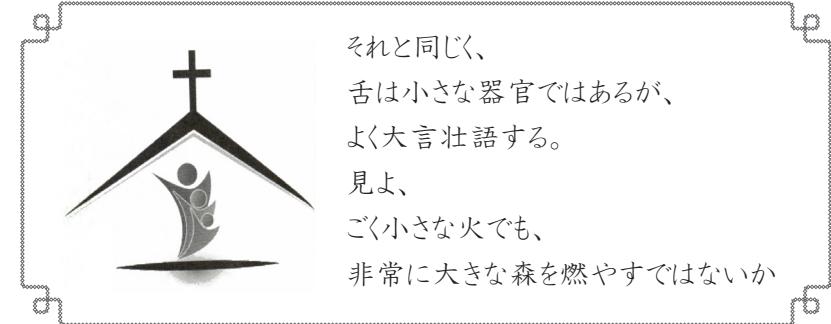


メッセージ

純福音東京教会 志垣重政 牧師

唇で告白する 御言葉の威力

ヤコブの手紙 3章 5節



神様は靈的な存在ですから、目で見ることも手で掴むこともできませんが、人は神様を知ることができます。神様の考えが何なのかを知ることができます。イエス・キリストを受け入れ、彼とつながっている限り、イエス様の考えが自分の中に入ってきます。イエス様につながることは、神様につながることであり、イエス様と一つになることは、まさしくイエス様の考えを知ることに他なりません。

ヨハネの福音書1章1節～3節に、「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった」とあります。

神様の考えや思いと自分をつなげること、また神様の御旨を自分のものとして受け取ることを「信仰告白」といいます。御言葉は単なる聖書に書かれた活字ではありません。御言葉は、神様そのもので、私たちと共にあります。御言葉を知っているのであれば、すでに神様を知っており、神様の御旨が何なのかもすでに悟っているのです。

しかし、御言葉を知っていたとしても、告白しないのであれば、奇跡は起こらないと、聖書は語っています。そして、告白したとき、神様の御旨を知り、奇蹟を体験できるようになります。救いもいやしも祝福も全て告白によって成されるのです。

では、御言葉の告白と人生にどのような関連があるのかを確認したいと思います。

ヘブル人への手紙3章1節です。「そこで、天の召しにあづかっている聖なる兄弟たちよ。あなたがたは、わたしたちが告白する信仰の使者また大祭司なるイエスを、思いみるべきである。」

イエス・キリストは、信仰告白の大祭司であると書かれています。その意味は、唇でもって告白したときに、イエス様が大祭司として、祈りを父なる神様に取り次いでくださるということです。イエス様は父なる神様の右に座しておられますが、私たちが思うだけで告白がなければ、大祭司として働くことはできません。これが四次元の靈性であり、天国の原理であり、宇宙万物創造の原理なのです。

五つのパンと二匹の魚による大いなる奇蹟が起きたときもそうでした。アンデレが、イエス様の御前に子どもを連れて来ました。その子は二匹の魚と五つのパンを持っており、それをイエス様の御前に差し出しました。イエス様は、アンデレの「これがどれほどのものになりましょうか」という否定的な告白ではなく、聖書には書かれていませんが、この少年の肯定的な告白を受け取られたに違いありません。その告白を通して、イエス様がそれを手に取り、祭司長として天に祈りをささげ、三万人近い人々が食べて満足してもなお、

十二かごに余る奇蹟がきました。

人生を支配しているのは、家柄ではなく、まさしく唇であり、舌であるのです。

箴言6章2節には「もしあなたのくちびるの言葉によって、わなにかかり、あなたの口の言葉によって捕えられたならば」とあります。また、ヤコブの手紙3章1節～5節には「わたしの兄弟たちよ。あなたがたのうち多くの者は、教師にならないがよい。わたしたち教師が、他の人たちよりも、もっときびしいさばきを受けることが、よくわかっているからである。わたしたちは皆、多くのあやまちを犯すものである。もし、言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、全身をも制御することのできる完全な人である。馬を御するために、その口にくつわをはめるなら、その全身を引きまわすことができる。また船を見るがよい。船体が非常に大きく、また激しい風に吹きまくられても、ごく小さなかじ一つで、操縦者の思いのままに運転される。それと同じく、舌は小さい器官ではあるが、よく大言壯語する。見よ、ごく小さな火でも、非常に大きな森を燃やすではないか」とあります。

舌が運命を決定していることに気づかなければなりません。人生を支配しているのは、まさしくこの小さな舌であり、唇なのです。だからこそ、絶対に否定的な言葉を吐いてはならないのです。もし、それができない場合は、むしろ黙っていた方がよいのです。

信仰告白はすべて御言葉の上に立って成されるべきです。自分の考え方や経験、知識の上に立って告白をした場合、そこには多くの間違いがあります。ですが、御言葉の上に立って告白するのであれば、それは全知全能なる神様の告白と同じですから、その御言葉の通りに成就することになります。

このとき「アーメン」が大切になります。「アーメン」の意味は「然

り」です。アーメンは、まさしく御言葉の通りですと、告白しているのです。御言葉を受け入れて、「アーメン」「然り」と告白したとき、神様の右の手が動き、勝利がもたらされます。

次に、日々告白することによって、悪魔の武装を解除することができます。悪霊を追い払うたった一つの方法も告白です。黙って念じたら、悪霊が出て行くとは、聖書には書かれていません。

エペソ人への手紙6章17節に、「また、救いのかぶとをかぶり、御靈の剣、すなわち、神の言を取りなさい」と書いてあります。

神様は戦うための武具を私たちに与えてくださっています。御言葉の剣を持って、神の武具を身につけて、大胆に進んで行くのであれば、負けることはありません。毎日の祈りによって、告白によって悪魔に立ち向かうのであれば、御言葉の剣によって悪霊は滅び、百戦百勝の勝ちを得ることができます。

「そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。」(ヤコブ4:7)

また、御言葉には悪霊を燃やし尽くす力があります。御言葉は火であり、また岩を打ち碎く鎧なのです。エレミヤ23章29節に、「主は仰せられる。わたしの言葉は火のようではないか。また岩を打ち碎く鎧のようではないか」とあります。

エバが悪魔の誘惑にあったときに、たった一つの御言葉を語ることができれば、エデンの園から追い払われることはありませんでした。しかし、誘惑に負けて罪を犯し、今子孫である私たちが悪魔の支配の中で苦しみ続けている事実を見るときに、たった一つの御言葉といえども、告白することの価値を知ることができます。

そして、告白は信仰を強める力を持っています。御言葉をしっかりと握って、御言葉の上に立って告白し続けるとき、信仰が強められます。一回二回だけでなく、毎日祈り続けるとき、その御言葉が自分の肉となり、靈となり、そして信仰となって、勝利を勝ち取ることができます。

ローマ人への手紙には、「なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。」（ローマ 10:10）

更に、「したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から來るのである」（ローマ 10:17）とあります。

信仰を確認する方法は、御言葉の告白以外にはありません。これが神の奥義であり、神様が与えてくださった資源であり、神の子どもとして与えられている特権であるのです。

「死と生とは舌に支配される、これを愛する者はその実を食べる。」（箴言 8:21）——良い舌を用いれば良い実を食べ、悪い舌を用いれば悪い実を得ることになります。

では、何を告白したら、よいのでしょうか。第一に、毎日どんなときでも、自分は罪ゆるされた義人であること、罪が完全にあがなわれ、イエス様が完全なる代価を払ってくださったことを告白し続けなければなりません。

コリント人への第二の手紙 5 章 21 節に、「神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである」とあります。

祈るときに、「私は裁かれて当然、死んで地獄に落とされて当たり前でしたが、救ってください感謝します」と、このような祈りをする方が多くあります。しかし、聖書を読めば読むほど、それは間違いであることに気づきます。自分が捨てられて当然な存在という、破壊的な言葉を用いてはいけません。そのような自分が救い出された感謝を込みたい場合は、「イエス様、あなたが罪をあがなってくだ

さり、義としてくださったことを感謝します。あなたによって神様の御前に立つことができるから感謝します。あなたの尊い血潮によって私は神の子どもとなり、神様と共に生きる力が与えられましたから感謝します」と祈るのです。同じ感謝の気持ちでも、用いる言葉によって結果が全く違ってくるのです。

また、毎日悔い改めをしなければなりません。今日ゆるされても、また明日罪を犯します。だから祈るたびに、罪があがなわれたことを告白し続けるべきなのです。

マタイの福音書 8 章 17 節——「これは、預言者イザヤによって『彼は、わたしたちのわざらいを身に受け、わたしたちの病を負うた』と言われた言葉が成就するためである。」

第二に、病の根源である罪がゆるされたことを告白したのであれば、いやされたことも、御言葉を用いて告白し続けなければなりません。なぜなら、すでにイエス・キリストによっていやされているという事実があるので、その事実を知りながら、告白をしなかつたとしたら、まさしくそれこそ罪であるからです。

「あなたが全ての不義をゆるし、全ての罪をあがない、そして全ての病をいやしてくださいましたから感謝します。」——このような告白をしたとき、いやしを勝ち取ることができます。主の御名によって、御言葉に従って大胆に語るとき、悪魔はこれに絶対に対抗できません。

また、イザヤ書 53 章 5 節の「その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ」（イザヤ 53:5）などの素晴らしい御言葉は、ノートに書き留めて、毎日そのノートを見ながら祈るのです。そうすると、御言葉が自分と一体になるのを感じることができます。御言葉と自分が一体になるとは、イエス様と一つになることであり、そのことで奇蹟は起きるのです。

第三に、呪いから解放されたことを認めなければなりません。認める方法は告白しかありません。

ガラテヤ人への手紙3章13節に、「キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。聖書に、『木にかけられる者は、すべてのろわれる』と書いてある」とあります。

更に、コリント人への第二の手紙8章9節には「あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っている。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、あなたがたが、彼の貧しさによって富む者になるためである」と書いてあります。

御言葉は、人生と切っても切れない関係にあります。御言葉を握って祈るときに、職場で祝福され、事業で祝福され、入るにも祝福され、出るにも祝福され、またどんなものもこね鉢さえも、私たちが触れるものは何でも祝福されるという御言葉が成就します。

告白こそ、人生の勝利の秘訣であり、たましいが恵まれているとは、告白できるということです。神様に感謝したいから——御言葉が嬉しいと喜びであるから——告白し続けるのです。御言葉を告白すれば、全てに恵まれ、健やかになることができます。

人生において必要な御言葉が与えられたならば、それを書き留めて、しっかりと握ってください。信仰を持って握っているうちに、ロゴスからレーマへと変わっていきます。レーマになったら、奇蹟は起きます。

第四に、聖霊と共に生きていくことを告白し続けなければなりません。そうすることは、聖霊と共にいることを人格的に確認することになります。

ヨハネの福音書14章17節です。「それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受ける

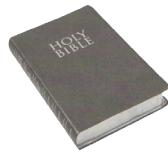
ことができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。」

聖霊体験がないからといって嘆く必要はありません。ある人はイエス様に出会ったその日に聖霊のバプテスマを受ける人がいます。十年経ってもなかなか聖霊体験ができない人がいるかも知れませんが、落胆しなくてもよいのです。「聖霊様、来てください。聖霊様、私の靈を占領してください。聖霊様、私の靈を支配してください」と告白したときに、聖霊様を感じます。言葉では言い表せない聖霊様の喜びと慰めを得ることができます。

最後に、神様の考えを唇で毎日確認しなければなりません。言葉で確認してこそ、自分の思いとなってきます。御言葉を告白すると、神様の考えと自分の考えとが一致していることを表すことになります。神様の考えとは、まさしく聖書の御言葉です。御言葉を続けて告白するのであれば、その御言葉が私たちの靈となり、肉となり、生き方となり、勝利へと導かれます。

神様の考えが臨んだとしても、告白しない限り奇跡は起きません。告白しない限り私たちの肉になることもあります。告白したとき、イエス様と一つになります。告白こそ神様の右の手を動かす原動力であり、奇跡を起こすスイッチなのです。告白は、大祭司イエス様のとりなしを得ることができ、悪魔の武装を解除し、なおかつ救いのかぶと、御霊の剣、炎の剣を勝ち取ることができます。

そして、告白することによって、信仰は大きくなります。そうすれば、山に向かって海に入れと命じ、言ったことが成ると信じて心に疑わないであれば、その通りになります。何でも願い求めたことは叶えられたと信じなさい、そうすればその通りになるであろうというみことばが人生の中で成就します。神様の考えを告白することによって、私たちは勝利から勝利、栄光から栄光へと変えられていくのです。†



主のしもべに よく仕えなさい



私はソウルのソデムン区ネンチョンドンで、小・中・高時代を過ごした。母は祈りの母、仕えることのお手本を見てくれた母だった。夫と教会と義両親に手厚く仕えた。母は市場で買い物をする際、良いものを見つけると、まず牧師宅へ持て行った。例えば、市場で買い物に出て、良質な肉を見つけたら、まず牧師様へ持て行き、その次に家に持ち帰り、義両親に出した。教会にもよく仕え、主のしもべによく仕えることが祝福を受ける秘訣だと言われたことをそのまま実行に移された。

仕えることの手本を見せる母

私たちは母の人生の法則を母を見て学んだ。母は自分で発言したそのままを実践する人だ。

母は、新米が出るとまず品質が一番良い米1俵を買い、牧師宅へ持て行った。そして次にくる米を私たち家族が食べた。チョー・ヨンギ牧師宅は私たちの家から3軒隣にあった。とても近くに住んでいたので、牧師宅にはよく行ったものだ。

ある日、母が、私を呼び、座らせてこのように言った。

「牧師様はイエス様のような方だ。だから牧師様の言葉に絶対に従順しなくてはならない。」

私は耳にたこができるほど、従順に対する教育を受けた。母のこのような教育は私の人格形成に多大な影響を及ぼした。主のしもべに向かって絶対に従順することを母は行動で見せてくださった。私はそのような母を見ながら、心で決心した。

「主のしもべの御言葉に従順しよう。」

母は画家だ

母は、子供たちの人生を左右する操縦士だ。イタリア・ナポリに音楽をこよなく好む少年がいた。貧しい家庭に生まれた少年は世界的な歌手になる夢を持っていた。彼は工場で働きながら自分の夢を打ち明けた。

「私は世界的な声楽家になりたい。」

その瞬間、友達たちは机を叩いて爆笑した。音楽の先生さえも冷笑を浮かべた。

「君の声は、風に門風紙（サッシの隙間に貼るテープのこと）が当たるような音だ。少年よ！他の道を探しなさい。」

少年は絶望した。その時、農場で働いていた母が少年に言った。

「お前の声は個性が強いのよ。続けて努力しなさい。そうすれば今よりもっと良い声帯を持てるようになる。」

少年は母の励ましに支えられ、熱心に努力をした。そして、世界的なテナーの隊列に堂々と上がった。この少年の名は、エンリコ・カルソだ。

母は画家だ。子どもは母が描くひとつの絵だ。暴君ネロの母は殺人者だった。米国初代大統領ジョージ・ワシントンの母は敬虔な清教徒だった。ナポレオンの母は旺盛な活動家だった。母は子の人生を左右する操縦士だ。

神様に祝福を受ける秘訣

私は信仰の家庭で生まれ育ったことにとても感謝している。祖父の信仰教育も、母のそれも一脈相通する。祖父は時々私を呼んで教育した。

「ヨンファン！私の言葉を肝に銘じてよく聞きなさい。神様に祝福を受ける秘訣が何であるか分かる？いつも主日を守り、礼拝をよく捧げ、主のしもべの言葉に従順することだ。君がこれから人生を歩む間、牧師様の言葉に背いてはいけない。」

私の頭の中には「従順」という単語が大きくはっきりとした文字で刻まれた。友達の誘惑につまずき、主日のお小遣い100ファンで友達と一緒に飴を買い、おつり50ファンを献金してものすごく怒られた以降、正しい物質感を持つようになったこと、主日を守ること、礼拝に最善を尽くすこと、主のしもべの前で従順する人生がどれだけ大きな祝福なのかを悟ったことは、すべて祖父の教えおかげだ。

「私が50ファンを献金したことを祖父はどうやって知り得たか？」

実は、これは私にとってミステリーだった。しかし、当時教会学校の学生の内、100ファンという大金を献金するのは殆どいなかった。多分、いつも100ファンを捧げる私が突然50ファンを献金したので、教会学校の先生が祖父に伝えたのではないかと想像してみる。このような小さな出来事一つ一つが私の人生の哲学を成立させている尊い契機となった。

少年時代の恵みのリバイバル聖会

ソデムン時代には、リバイバル聖会がとても多く開かれた。ほぼ毎月のように聖会が開かれた。私は殆どすべてのリバイバル聖会に出席した。韓国の著名な牧師たちの説教の大部分はこの聖会の時に聞いた。聖会は通常、週中に5日間開かれた。夜の集会は午後7時30分から始まり、11時に終わる。恵みを慕う聖徒たちは隙間なく入り、講壇の上まで皆が座り礼拝を捧げた。通行禁止時間が徹底され



母は祈りの母、仕えることの手本を見せてくださった母だった

守られていた時期だ。帰宅できない聖徒たちは礼拝堂で夜通し祈りもした。

私はすべての集会を欠かさなかった。そして毎集会で大きな恵みを体験した。幼い学生がなぜそのように集会に熱中したのか。聖霊のバプテスマを体験した後、恵みを慕う心が切になったからだ。更に、祖父の教えに影響を受けたためだ。祖父は主日に漫画本を見るいや遊びに集中することを厳格に禁止した。主日は個人の有益や快樂に使うのではなく、敬虔に過ごさなければならないということだった。外で何かを買って食べることも出来なかつた。それは幼い時代、祖父に学んだ正しい主日を守る姿勢だ。

「良い麦の信仰者になりたいか？それならば主日を守ることだけでなく教会で開かれるすべての集会に休むことなく参加しなさい。」

祖父の教えにより、幼い頃にすべてのリバイバル聖会に参席し、大きな恵みを受けた。私の人生の中で最も純粋な心で礼拝を捧げていた時だ。その時捧げた切なる祈りが、人生を持ちこたえさせてくれる敬虔な綱となった。†



「生命の力」に出会う

神学校1年の時だった。そもそも、中途半端に運動する人は誰かに自分の力を誇示しよとするものであり、また中途半端に知識のある人は他人を教えようとするものだ。私もその一人だった。

当時、私は主日礼拝を捧げに行くとき、英語とハングルが一緒に書かれたきれいな英韓対訳聖書を持って行き、これ見よがしに机の上に置いた。そして、他の人がどういう聖書を持ってくるのだろうかと周りを見渡していると、私より少し年上に見えるすぐ隣りの女性の聖書が目に入った。その聖書は英韓対訳ではなく、全部英語で書かれた「英語の聖書」だった。それよりもっと驚いたのは、その女性がどれほどたくさん読み込んだのか、聖書全体が手垢で黒ずんでいて、表紙はすり減ってぼろぼろの状態だったのである。

礼拝後、私はその人に色々話を訊いてみた。その人は神学生でもなく、その聖書は古本屋で買った骨董品でもなかった。彼女は、ただ神の御言葉をもっと知りたくて英語聖書を読んだだけだ、と謙遜に答えた。それは私にとってものすごい衝撃であった。たくさん読んできつたのは聖書だけではない。そうして多くの時間を費し、聖書を読みながら成熟したその女性の美しい品性に、私は自分自身が恥ずかしくなったのである。

それ以来、一日聖書を70章ずつ読み始めた。韓国語聖書を読み、英語の聖書を読み、ドイツ語やラテン語、後にはギリシャ語やヘブ

ル語の聖書も読んだ。100回以上の聖書通読と研究にとどまらず、感動しながら読んだ聖書の教える通りに生きようと、私はもがき続けてきた。牧師となった今も、その時の女性が見せてくれた古い聖書と優しい言葉を忘れることがない。その女性から受けた影響により、私は聖書を飾って置くだけの人ではなく、聖書の御言葉を伝える存在に生まれ変わった。

しかし、この世には、そうした良い影響力ばかりがあるわけではない。欲望や貪欲、淫乱や偽り、暴力や二重性が蔓延している。分別のない子どもたちは、スマートフォンから流れる歌やゲームにはまっているし、誘惑に弱い青年たちは、まるで水を飲むように淫乱や暴力に浸っている。テレビやインターネットの暴言、文化がつくり出す加虐性が、私たちの靈性を破壊している。人生は一度きりなのに、召命に導かれるのではなく、お金や欲望に囚われる人生となっているのだ。

最も心が痛むのは、教会が世を変える影響力を発揮せず、反対にこの世に巻き込まれ変質させられているということだ。しかも、そのことに全く気づいていない教会は、さらに世に迎合しようとしている。要するに、教会が世間に生命と力を与えるのではなく、逆に、現世の悪の力の支配を受けて、息も絶え絶えとなっているのだ。

この胸の痛い現実をどうすればよいのだろうか。これから私たちは、クローン人間のように、頭でっかちな教理や形式的な儀式、あるいは無条件的な奉仕だけに目を向けるのではなく、目を上げてより大きな絵を見つめなければならない。

それは、「本当に私たちが今、どういう影響の下にいるか」を直視しなければならないということだ。より具体的に言うならば、私はどこから力を受け、どういう力を送り出しているか、点検しなければならない。当然のことながら、悪の力の支配下にある人に、生命を生み出す力を送り出せるわけがない。それを可能にするには、「自分自身に起こる『変化』という力」をもつことが最も重要となる。

学生時代、尊敬する恩師はいつも私たちに、「誰よりも、まず、あなた自身に福音を伝えなければならない」と強調した。そうだ。礼拝と御言葉を通して、まず自分が変えられなければ、いかなる福音の力を発することもできない。「赦しを受けた人が赦し、愛を受けた人が愛し、変化した人が変化させることができる」のである。自分が食べてみて、本当に美味しいと感じた物は、人にも「食べてみて」と言える。自分が使ってみて本当に効果がある製品だけを人に贈ることができる。数十年間祈りの課題として家族の救いや生き方の変化を語っていながらも、実際にどれも福音的な変化が起きない理由は、まさにここにある。

今、この瞬間、自分が聴いている音楽や見ている映像が、生きる喜びを与える人生を変えるものであるのかどうか、徹底的に点検してみる必要がある。自分がよく使う言葉や表現はどうだろうか？私によってどんなことが起きているのか？私は今、誰の弟子であり、誰を弟子としているか？——私たちはこの世の塩と光として召されたのである。この世で最も偉大な影響力のある存在として召されているということだ。しかし、もしその塩や光がその影響力を失うとしたら、私たちは役立たずとなるであろう、と主は警告しておられる。(マタイ5章)

ご一緒に、十字架の前に立って心から問い合わせてみよう。主の十字架から流れ出る偉大な力が、私たちにいかにして入ってきたのか、また私たちを通じていかにして流れ出していくのかと。あと二カ月余りで終わるこの一年を締めくくる今、スマートフォンやドラマ、世間のニュースや世的な価値に振り回されることをやめ、御言葉と祈りの前に自分自身を下ろしてみよう。今年必ず福音を伝えようと思った人を訪ね、お茶や食事を接待しながら、手を握って祈って欲しい。ただイエス・キリストの尊い力が、絶え間なく流れるよう切に願っている。生命の人たちよ、『生命の力』に出会おうではないか。†



ヘンリー・グルーバー
(Henry Gruver) 牧師



創世記14章に『十分の一』が初めて登場する。エラムの王、ケダラオメルを中心とした四つの連合軍と、ソドム王、ゴモラ王など5カ国の連合軍が戦争をした。シデムの谷では二つの勢力が激突して、アスファルトの穴が多かったので、ソドムの王とゴモラの王は逃げてそこに落ちたが、残りの者は山にのがれた。ケダラオメルの四つの連合軍の兵士たちはソドムとゴモラの財物はもちろん、その地の人たちを捕虜として連れて行ったが、その中にアブラハムの甥であるロトもいた。戦場から逃げて来た人がアブラハムにこの恐ろしい災いを知らせた。

文化は発達していて豊かな都市、ソドムで暮らしていたロトは、戦争捕虜となってしまい、外で寝て、打たれて、働かなければならぬ悲惨な状況に置かれた。アブラハムはこの知らせを聞いて、

良く訓練された自分の私兵 318 名を連れて行き、ケダラオメルの連合軍を打ち破って、ロトとすべての財産を取り戻して帰って来た。驚くことに、民間人であるアブラハムが 318 名の私兵で、5 カ国の連合軍を敗退させた 4 カ国の連合軍と戦って大勝利を得たのである。

ヤーウェなる主は戦争で勝利して戻って来たアブラハムに、イエス・キリストの予形であるサレムの王・メルキゼデクを遣わし、祝福された。

「願わくはあなたの敵をあなたの手に渡されたいと高き神があがめられるように。アブラムは彼にすべての物の十分の一を贈った。」(創世記 14:19 ~ 20)

アブラハムはメルキゼデクに自分が戦争で買って得たすべての戦利品の十分の一を捧げた。

ヤーウェなる主はアブラハムをお召しになり、彼と共に歩みながら、ご自分が誰なのか、人生の事件と経験を通して啓示された。アブラハムはヤーウェなる主が最もいと高き方であり、天だけではなく地も治められる方で、全ての敵から救われる方であるという啓示を戦争を通して悟った。この事を通してアブラハムは、神の民は少數で弱くとも、多数の強敵を打ち破ることができる、という信仰を持つようになった。

主はその啓示を確証させ、祝福するためにメルキゼデクを送られたのである。アブラハムはこの信仰をもってメルキゼデクに十分の一を捧げた。アブラハムは歴史上最初に十分の一を捧げた人になった。サレムの王・メルキゼデクの祝福を受けて戻ったアブラハムの前にソドムの王が来て、アブラハムが連れ戻したソドムの人たちは自分に返して、財産はアブラハムが持つて帰つて良いという条件提示した。

偶像崇拝者たちだけが住む地域で一人、ヤーウェなる神に仕えて激しくて孤独な靈的戦いをして来たアブラハムは、この日ソドムの

王に大胆に話す。

「天地の主なるいと高き神、主に手をあげて、わたしは誓います。わたしは糸一本でも、くつひも一本でも、あなたのものは何にも受けません。アブラムを富ませたのはわたしだと、あなたが言わないよう。」(創世記 14:22 ~ 23)

アブラハムはソドムの財産がなくても、ヤーウェなる主が自分を豊かにして下さると信じるようになっていた。

十分の一の祝福

創世記 28 章では、ヤコブは主がヤコブ自信を守られ、与えられ、無事に父の家に帰つて来るようにして下されば、主を自分の神として仕え、十分の一を捧げると誓いを立てる。

ヤーウェなる主はレビ記 27 章 30 節で、イスラエルの民と十分の一に対する約束を再び更新される。

「地の十分の一は地の產物であれ、木の実であれ、すべて主のものであつて、主に聖なる物である。」

アブラハムとヤコブ、そしてイスラエルの民は各々十分の一の契約を主と交わした。マラキ書では、偶像崇拝と罪に溺れ、形式的な宗教生活はしているが、靈的に道徳的に堕落し、乏しくて弱くなつたイスラエルの民たちに立ち返るよう言われる。イスラエルの民が主に立ち返るためににはどうすれば良いか訊くと、十分の一を正しく捧げるよう言われた。

「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふれる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。」(マラキ 3:10)

神はイスラエルの民と契約を結ばれると、その契約を根拠としてイスラエルを治められる方だ。特に信仰の先祖であるアブラハムと

信仰によって結んだ契約は、神がイスラエルを統治される時に好意と恵みと祝福を下さる基盤となった。

主が全宇宙で最もいと高き方で、天と地の主人であられ、全ての敵から救い出して下さるのに、マラキ書におけるイスラエルの民たちは、祝福を受けられる契約の基盤である十分の一を正しく主に捧げなかつた。自ら助けられる道を閉ざしたのである。

勝利の秘訣

私は、二千年前にエルサレムから追い出されたユダヤ人たちは、国もなく全世界を流浪しながら生きていた。けれども、ユダヤ人として根強く生き残り、二千年ぶりにカナンに再び国を建て上げ、中東ムスリム国家を敗北させ、戦争で勝利して来たことを目撃した。ユダヤ人の中には、神の民は弱くて少数だとしても、多数の強敵に勝てるというアブラハムの信仰を、事実に持っていたのである。

主はいと高く、天地の主であられ、全ての敵から私たちを救われる方だ。メルキゼデクに等しい、私たちのための大祭司長になられたイエス・キリストの名で神に十分の一を捧げる主の民は、弱くて少数だとしても多数の強敵を打ち破ることができる。

神の民が貧困、病気、災難、ねじれた関係、情緒不安、傷のような攻撃を敵から受ける。教会は21世紀に入り、あらゆる攻撃を受けている。教育、文化、法律、芸能、科学という名の下で教会の中に入り込み、聖書の御言葉を基盤としたキリスト教の道徳を壊し、私たちの信仰を壊す世俗主義は、21世紀教会が直面した最も危険な脅威である。

世俗主義勢力は国家基盤のいろんなところを掌握している。しかし、神の民は少数の弱い者達が祈っているとしても、十分の一の契約とイエス・キリストの血潮の力によって、多数の強い敵でも勝つことができ、また勝たなければならない！†

我が人生のプラス

感謝の礼拝を捧げる人生

我が人生のプラス



ホン・ソンピョ

亞洲大学校教授
永楽（ヨンラク）教会 軍人宣教会チーム長

とりなし祈りに答えられた奇跡の神様

2009年7月、安息年で、アメリカのオハイオ州、デイトンの空軍大学院に交換教授として行っていた時のことである。その日は、韓国国防大学で博士課程にある弟子が来訪して、米国立博物館と一緒に観覧していたが、突然、携帯電話が鳴り、妻が切羽詰った声で話しだした。「あなた、家に火事が起きたそうです。今早く来てください！」妻は引き続き、「私たちの家の屋根に雷が落ちて火が付き、今、火炎が燃え上がっています！」と言った。

先が見えないほど真っ暗な暴雨の中を搔き分けて急いで家に着いたら、18世帯が住んでいる3階建てのマンションの建物の屋根の真ん中に火炎がうねり燃えていた。まだ消防車が到着する前なのに赤十字メンバーらが先に出動し、腕章をつけて居住民らを把握していましたし、私にもマンションの号室、連絡先、家族数などを尋ねた。建物の周りには既に統制線が設置され、出入りは禁じられていたが、急ぎ心で無理に中に入り、水がざあざあと落ちてくるリビングでノートパソコンだけ取りまとめて、出てきた。

しばらくして、消防車が押し掛け、消防作業が始まった。屋根は既に5分の1ほどが灰に変わり、炎はさらに大きくなり、残りの屋根を飲み込もうとしていた。2時間以上、火が燃えている間に大雨は止み、マンションの建物の前には、放送局のカメラと警察、市民

たちでごった返していた。

携帯が鳴り出でみると、近くに住んでいる世界キリスト教の兵士連合会 (AMCF) ボランティア要員マーシャ・グレジア (Marsha Grrazier) 婦人であった。「ホン博士、テレビでマンションが燃えているニュースを見ていますが、これはあなたのマンションですね?」「そうです。」「オー!なぜ話さなかつたのですか?」「良くないニュースですから。悪いニュースが広がるのは嫌ですからね。」「なんということでしょう。そんなことはありません!兄弟姉妹なのに...。」と言ひながら、夫のビッグ (Vic) が、今デンバーで AMCF の役員 450 人とともに夏の修練会に参加しているので、私のために緊急の祈りのリクエストをすることになった。

しばらくしてスー・ケスナー (Sue Casner) 夫人から電話をうけた。数年前にご夫婦で韓国を訪問の際、龍仁民俗村を案内してあげた方である。電話でスーは、「ホン博士、私たちは今マンションの火災のニュースを聞いて、直ぐに会議を中断し、450 人余りがホン博士と家族のために声を出して祈っています。心配しないで。全能の神様は、子どもを両腕で抱きかかえて守ってくださいますから何事もないでしょう。」その瞬間、涙が出た。スーが、「この瞬間、特別なお祈りの題目があれば教えてください。」と聞き、「パスポートと衣類が健在したらいいですね。」と答えたら、「分かりました。問題ありません。」と言い、電話を切った。

その間に、マンションは 3 階すべてが燃えてなくなつた。2 階も、両端から燃えていた。私のマンションは 2 階の内側だったが、消防士がずっと水をまいていたので、正確な状態を知ることはできないが、外見上、崩れずに立っていた。4 時間も燃え続け、残っていた姿とは、まさに奇跡のように真ん中の私の部屋だけを残して両側の建物はいずれも燃えて完全に灰の山となつた。1 階は、全て車庫だったが、乗用車がそのまま灰に埋もれてしまった。

ついに火はすべて消火され、消防作業は終わったが、現場の保存

のため、接近を阻んでいた。夕方になると、消防士がショベルカーに乗って建物の残骸を見て、振り返る私に「家の中で、取り出すものがあるか」と聞き、「寝室のベッドのそばのパスポートのカバンや宝石箱」と答えたら、「断言できないが、待って」と言われ、しばらくして、カバンの他にもゴルフクラブまでパワーショベルに一杯入ってきた。また行って、衣類を含めた家財道具を積んできた。

嬉しい気持ちですぐスーに電話して「スー、祈りが答えられました! 祈りのお陰で、私のすべてが保護されました。神様のこの驚くべき祈りの答えのニュースをそこの同役者たちにお知らせください!」と話した。スーは大声で「主を賛美。主を賛美! アーメン」と答えた。感激の涙にむせび泣いた。まもなく、マーシャに電話して説明する時には、のどがしづがれて言葉に詰まった。

学校では、デジ (Deji) 学科長と私のスポンサーであるマーク・ゴルツ (Mark Goltz) 教授が緊急教授会議を開き、ホン教授の災害を公示し、使わない家財道具などを集めることを相談してくれた。その時、チャーリー・ブラックマン (Charlie Bleckman) 教授は、6 カ月前にゲストハウスを購入したが、ようやく改装工事を終えたと言い、それを無料で提供すると提案してくれた。無料では嫌なので、家賃を払おうとしたところ、月に 450 ドル支払うことを受け入れた。以前の 1,300 ドルのマンションに比べれば、広い庭がついた、はるかに良い高級住宅だった。その後、帰国するまでの 4 カ月間、その家で、アメリカらしくよく務めた。聖徒たちとも急速に近くなつた。ほとんど転出入が頻繁な現役軍人とその家族たちは、通常よそよそしかつたが、その事件以来、家族のような雰囲気が感じられ、教友たちも、私たちを家族並みに扱つた。

この一連の過程を通じて、私は神様の驚くべき愛を体験した。主は 450 人余りが叫ぶ声を出す祈りを聞いて、抑えようもなく燃えた炎の中で、私の切なる祈りを聞いてくださつたのだ。両方とも焼けて灰に崩れた現場で、2 階だけ燃えずに残すされるか。燃えて残つ

たマンションの姿は、全能の神様の能力を示す一枚の証明写真だった。今もその燃え崩れたマンションの姿を描いてみると、祈りに答えてくださった神様の驚くべき能力に感心し、その間、主の使役に消極的に怠惰した私の信仰の姿勢を再び取り直す。†

我が人生のプラス



価打ちのない私を 召してくださいました神様

イ・キョンラク
KRコンサルティング代表
韓国ニューヨーク洲立大学兼任教授

1958年に生まれ、1978年に大学へ入学し、1982年1月に就職した。1988年の夏にソウルで「大宇グループ科学的管理テクニック事例発表会」があった。大宇精密工業（株）で勤務していた私は、会社代表として参加するようになったが、その時、補助発表者として、コウゼイホウ課長が同行した。

発表前日に上京し、宿泊施設を決めて、夜に発表の練習をした。コウ課長は、TQC(Total Quality Control・総合的品質管理運動)事務局で勤務しながら、分任組発表など、様々な発表大会を主管していた。彼は私の発表を聞くなり、時間のオーバーと単語の表現が良くないと言った。そして、非常に多くの内容の修正を頼んで来た。私は、それなりに彼の要求通りにして発表の練習をした。何回も繰り返した後、遂にコウ課長の要求事項を全部実行できた。

しかし彼は、今度は、時間があんまりにも短くなつたので内容を少し増やして欲しいと言ってきた。だから私は逆に、いくつかの修正案を要求した。このようなことが繰り返されながら結局、夜が明けてしまった。心も体も疲れてしまった。今後一切、柔軟性が全くないコウ課長とは関わりたくない気持ちまであった。

発表会の場で、補助発表者として私の前にいたコウ課長を意識しながら、とても大きい声で強く決定的な発表をした。質問にも堂々とした態度で大きな声で回答した。声のトーンが1オクターブ上がっていたようだった。そして、発表終了後の受賞式で、私が最高賞の金賞を受賞した。

実は、大宇精密工業（株）は大宇グループの中では規模が小さい会社だったので、私が金賞を受賞することは破格なことだった。そして完璧な発表ができたのは、コウ課長の発表指導の力がとても大きかったと痛感した。これがきっかけで、私は大宇グループの講師として抜擢されて、コンサルタントの道が開かれるようになった。振り返ってみたら、名前も出ないので、支えてくださった彼の苦労に感謝の気持ちでいっぱいだった。

恵みでなければ

1992年1月にコンサルタントになってから、最初は簡単ではなかった。実力を上げるために、日本の研修を準備し、1993年1月に日本へ出国した。到着した第一週の週末の朝、教会の場所が分からず迷った。そこで、神様は心の中心を見ると言ったので、今日は教会を探すという献身礼拝を捧げるはどうだろうと考えた。

そのように考えて朝に宿泊施設から出発し、祈りながら道を歩いた。驚くことに、すぐに教会が見つかった。その町で唯一の教会だった。礼拝が終わって出る時に、日本人の牧師先生から、水曜日の夜に聖書勉強会があるから、時間が可能な限り来て一緒に勉強しましょうとの誘いを受けた。

宿泊施設に戻ってじっくりと考えていたら、日本語が得意ではない私が聖書勉強会に参加してうまく聞き取れなかつたら困るのではないかと考えた。そこで、日本に何か月間か滞在する予定だった為、正直に日本語の勉強をしなくてはいけないと思った。どんな方法でするのが良いかとじっくり考えた後、日本語の聖書で日本語を勉強

しようと決めた。日本語の聖書の内容の中で、まず一章を暗記してから水曜日の聖書勉強会に参加するのが良い気がした。

お祈りの後、聖書を開けたらヤコブの5章だった。日曜日の午後から水曜日の夜まで、時間があればヤコブの5章を読んだり書いたりした。勉強した単語が出れば、ある程度分かるのではないかと期待して準備した。そして水曜日の夜、時間に合わせて教会に行った。円状に囲まれて座り、勉強をした。

驚くのは、その日の聖書勉強会の本文の箇所は、ヤコブの5章だった。私はとても驚いた。日本で滞在する間は毎週水曜日の夜と土曜日と日曜日はその教会で生活した。結婚式にも招待され、その教会の聖徒達とともに親しく過ごした。そして帰国する最後の日曜日は、教会の聖徒たちが、私にお別れの挨拶と共に小さなプレゼントをくれた。日本での生活は生きている神様と同行する信頼を深めるきっかけになった。

2008年10月になった時、私は私の限界に直面した。イスラエル民族が荒野で40年間を過ごした時には、昼間は雲の柱、夜は火の柱で神様が導くことを見た。私の人生の旅にも雲の柱と火の柱の案内があつたら良いと思った。毎朝、神様と会い、1日の計画を神様の前で立てる日々を生きて行くことが良いようだ。

そして40日間の早天の祈りを行動に移した。自信を得た後は400日間の早天の祈りにチャレンジした。たくさんの神様の御手が見られた。そして、現在4000日間の早天の祈りにチャレンジ中である。4000日が終わったら40000日間の早天の祈りをチャレンジしたい気持ちだ。

私の人生の感謝は、資格がない私を呼んで下さり、イエス・キリストを信じさせ、いつも聖霊の導きを体験する人生を生きられるようにしてくださる神様の恵みである。†

我が人生のプラス



ホン・スチョル
イエピツ教会 牧師

すべての事について感謝しなさい

デボラ・ノービルは彼の本＜感謝の力＞で、「人間は初めに『ママ、パパ』の言葉を覚え、その次に『感謝します、ありがとうございます』の言葉を覚える、と彼はいう。そのくらい感謝の言葉は大切なである。私は、常に意識して感謝の気持ちを持ち、立場的に私より下にいる人たちの気持ちを思いやり顧みながら生きようとしている。しかし、時々そのようにできないときがある。そうすると自分の心は平安でなくなってしまう。けれども、いつも感謝の力で生きるということは、ある意味で自分の幸せのためだ。幸福をつくり出し、それを持続させる力は自分自身にある。それがわかった瞬間、人生は変わっていく。

脊椎に障害を持って生まれたチョクという人の実話である。彼は、幼い時から親より感謝する訓練を受けてきた。更に彼は、バスケットボールのキャプテン、新聞記者、プロデューサー、金融機関の営業部長、大型売店社長、そして二人の娘を持つ父親として、一般の人よりも成功した人生を生きている。彼の母は「不幸な人は自分の足りないところを見て恨み呟く。しかし、幸せな人は自分の持っているものに満足し感謝するのである。あなたはどれを取るか常によく考えなさい」と、チョクに聞かせたという。

物事そのものが人間を悩ませるのではない。人間が物事をどう捉えるか、その観点によって自分が自分を苦しめているのである。真の幸せに導く秘訣は、『ありがとう、感謝します』その一言に尽きる。

我が家家の家訓は「すべての事について感謝しなさい」だ。私が幼

い頃、父はいつも苦しい時も栄える時も、健やかな時も病んでいる時も、いかなる状況の中にも常に神様に感謝しなさい、であった。子どもの頃の記憶を思い起せば、「どうしてそのようにできるだろうか！私は怪我をし、痛くて我慢ができないのに……」と思うときもあった。悪い奴らに理由もなく殴られたとき、そういう状況で感謝するということは、とても理解し難いことだった。しかし、時が過ぎて私も大人になり、社会生活をしながら少しずつ父の話が理解できるようになった。そして、すべての事について感謝する生活が徐々に慣れてきた。

ある日、神のお召しが私に臨んだ。私の罪のゆえに、主イエス・キリストが十字架で死なれたという御言葉が心に響いてきた。私はとめどなく涙が流れ、主の御前で悔い改めた。そうして遂に、私が決断する時が来た。もはや私は、私のための人生ではなく、神の御心に従って生きる人性、それこそが最も価値のある生き方だということを発見した。私は、世的な音楽家としての仕事をやめ、主が与えて下さった賜物をもって、神を賛美し福音を宣べ伝える者として生きていく決心をした。後に神学校に入り、私は主の僕としての道を歩み出すようになった。

いま私が生きているこの世は、まるで闇に包まれた森のようだ。人々は希望の光を失い、この世で希望もなく生きていく姿が目に浮んだ。彼らに、「人類救済のためにこの世に来られた、真の光となるイエス・キリストを伝えよう」と、イエビツ（イエスの光）教会を開拓するようになった。

開拓して牧会するのは、絶えず長い時間の連続だった。傷ついた者や病んだ者が早天礼拝に来て自分の靈肉の病の癒しのために、泣き叫びながら主に懇願する姿を見ると、いとも胸が痛んだ。私も彼らと共にただ神にすがり、切に祈り求める時間が段々長くなっていた。「神様、彼らを哀れんで下さい、病を治して下さい」と、切実

に主に祈り求めるその時間は、あまりにも辛い時間だった。ところが、心の病や体の病が癒されることもなく、この世を去って天に召されて逝った方もいる。そういう状況の中で、遺族の前で感謝して神の御前に出るのは非常に辛いことだった。しかし、感謝をもって礼拝を捧げ、祈りながら忍耐したとき、神の癒しのみわざが起きた。感謝で満ち溢れる瞬間が訪れた。時間が経って振り返ってみると、先に天に召された方々も神に感謝すべき事であり、癒された方々も感謝すべき事だった。すべての事について感謝すべきことだったのである。

開拓から3年が経ち、礼拝堂を拡張するようになった。もはや2倍の広さとなった。現在は300人以上集まり、皆さんと共に神に栄光を捧げ、感謝に満ち溢れた『信仰の共同体』を形成している。牧会者として歩む道、そこには、人間の力ではとうてい解決できない長いトンネルのような、見えない暗闇の時期もあった。しかしその時も私は、「神様には私を訓練させたい何かがある」と思った。先の見えない長いトンネルの中にいると、私は「最後まで耐え忍べよう、私に感謝する心を与えてください」と、神に祈る。いかなる環境の中においても、主は私に心配より感謝する心を与えて下さった。「いかなる状況においても私は主に感謝します」と告白するたびに、そのトンネルから抜け出すことができ、それこそがトンネルから抜け出せる最短の近道であったことも確認できた。と同時に、私は主に似ていく成熟した姿に変わっていた。

私の牧会の旅程を振り返ってみると、どれほど感謝することが多いかわからない。感謝の心が与えられたとき、私の自力で生きようとする、悲壮な努力をやめるようになる。神の恵みによって生きていこうとすると、心に平穏が訪れる。そして、私の最も深い内なるものが、神に属していることに気づくようになる。「わがたましいよ、主をほめよ。わがうちなるすべてのものよ、その聖なるみ名をほめよ。」（詩編 103:1）†



感謝こそが 我が人生の活力剤！

ファン・ウォンジュン

ファン・ウォンジュン精神健康医学科医院院長
韓国精神健康研究所代表理事

精神健康医学科専門医として、精神健康に関する寄稿は気を張らずに寄稿する。今回、収穫感謝祭を迎えた個人的に経験した感謝をテーマに書き付けることを依頼された。感謝を書き連ねるということは、まかり間違えれば自慢話になるのではないかと恐れたのだが、主に「アーメン」を持って従順する信仰者として、そして肯定的マインド（積極的精神姿勢）による積極性から引き受けてしまった。しかし、私がこれから証する感謝とは、牧師の説教の中に登場するような、たとえば苦難、苦しみのなかにあっても主に感謝したヨブのような、普通の人々がとうてい経験することがないようなスペクタルな感謝ではなく、誰もが感じられる身近なものであり、平凡な日常的なことである。

私が何よりも神に感謝捧げることは自分自身が精神健康医学科医師であることだ。専門医を修練する当時はあまり人気ではなかった「精神健康医学科」は、今では最高の人気の専門科目である。

特に信仰者として精神健康医学医師は「宣べ伝え、教えて、癒す」主イエス・キリストの3大使役を少しでも見習い、宣教的使命を果たす人生を生きられることを心から感謝する。人生のビジョンも聖書の御言葉に精神健康知識を絶妙に混ぜ合わせ、味の効いたパンチのあるビビンバのような文書で著書を残し、そして講演しながら心を再生、整形できる医者として生きていきたいと思っている。

40代の若い頃、ある団体の運営委員会に所属していた頃のことだ。

一人の老輩の委員長から「ファン院長は医者になったことを神様に感謝しなさい」と言われた。ファン院長は勉強が出来たから医者になったと思っているかもしれないが。それは神様がくださった『賜物』、タラントなのだから感謝する気持ちでへりくだり用いられ奉仕しなさいと言われた。私が仕えている実業人宣教会の主題を『低くなり～高くなり』——「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」（ルカ 18:14）——と決めて全てにおいて低い姿勢で仕えていきたいと思っている。その結果、夫婦学校で写真撮影の奉仕をしていたら、当時甥っ子の教区長牧師先生が私の職業が写真家だと甥に言ったそうだ。「お医者さんだったんだね」という周囲からの改めての驚きの反応もしばしばだ。

二つ目に感謝することは、今の肯定的マインド（肯定的精神・思考）である。医者になったからには勉強はできていたかもしれないが田舎教会の高等部会長にも関わらず女子学生に先に声を掛けたことがないほど消極的で内気な性格だった。そんな私が精神健康医学科医師の修練を受け性格が変わった。

振り返ってみると青少年時代に模範生として周囲の友達や親たちから多くの称賛と激励を受けたことが原動力になったと思う。中学3年生の担任教師と専門医修練時期の恩師はいまだに私の精神的メンターだ。（精神的・人間的に成長を支援くださった）

中学3年の担任教師の愛は、音は大きいものの痛くない『愛』のむちでいつも認めて褒めていただいた。辛く難しい専門医修練過程でも、叱るよりも、いつも耐えて待ってくださる恩師の大らかな優しさを受けた。そして、「いつも喜びなさい。」（Iテサロニケ5:16）という気持ちで引き受けた使役をよどみなく成し遂げる肯定的マインドを持たせてくださった神様に感謝する。

三番目は平和（マタイ5:9）に導くリーダーシップだ。相手の過ちをすぐに叱ったり非難するのではなく、自分でわかるまで待つてあげる。病院を運営していると物質的損害や法的な問題を訴訟で解

決するよりは「私が少し損をしよう。」と考えてはおろせる平和の賜物に感謝する。

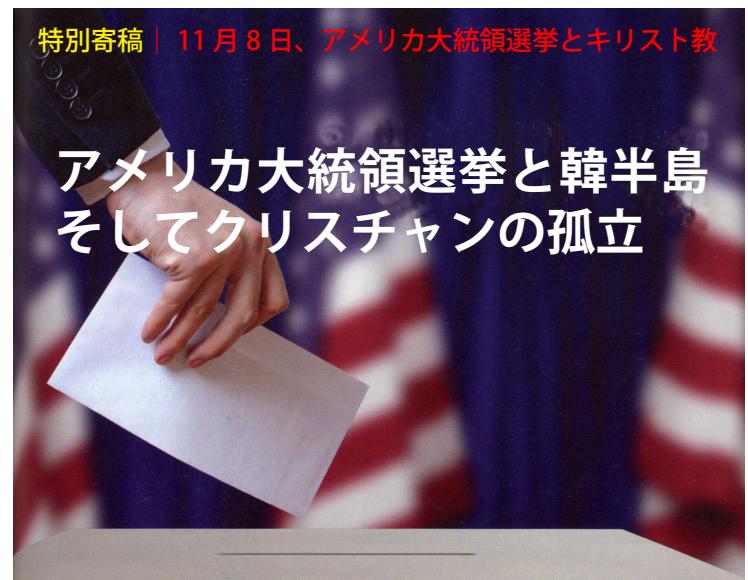
団体の会長として問題になった人を法的措置することを提案されたこともあったが断った。確かにあの人は過ちを起こした。しかしそれを法的措置すると結局は法的紛争に繋がり平和を割る原因になると判断したからだ。相手の過ちをほじくるよりは沈黙と祈りで待つとすべての過ちは、必ず正しい道理に帰するという意味の「事必帰正」だと確信する。相手の弱さを覆い施す賜物が私たち夫婦にある。漢学を学ぶことができた中学3年生の担任教師はこのような私の人格をよく知っていて【施す】フン(薰)の字で山のように徳で人を施す「フンサン(薰山)」という名を名付けてくださった。

最後に感謝することは、父なる神様に放浪息子になる前にひざまずいて悔い改めて戻ることである。私に似ている二番目の息子は朝の朝刊新聞と共に帰宅する。いわゆる朝帰りだ。じっと我慢していた妻がある日、二番目の息子を叱ってほしいと言ってきた。私は、いつもより早く退勤し「今日こそ遅く帰ってきたら懲らしめよう」と心を構える。しかし、息子は素晴らしいタイミングにその日は夕方に家に帰ってくる。「叱ろう」としていた気持ちはいつもの間にか何処かに飛んでいき、むしろ息子がかわいくなりキスしながらなでたてる。父なる神の愛とは、いつも私達をこのように愛してくださっているのだと感謝する。

2008年に按手執事になった。以降、どんな欲も感じられず断酒をしている。執事の頃に「いつか按手執事になつたらお酒を辞めよう」と思っていたがそれが行動に自然につながった。平凡な日常の中、「つねに感謝しなさい」の御言葉は肯定的で情熱的な我が人生の活力剤だ。こんな神様の子供であるファン・オンジュンは父なる神様の無限なる愛を平凡な日常でいつも感じ取り感謝して喜んで生きている。†

特別寄稿 | 11月8日、アメリカ大統領選挙とキリスト教

アメリカ大統領選挙と韓半島 そしてクリスチヤンの孤立



ソン・ヒョンギヨン 牧師
アメリカ・ニュージャージ・ゴスペル・フェローシップ教会

アメリカ大統領選挙について今、私たちはメディアのニュースの情報を通じてしかその状況を知ることができない。テレビニュースと候補者の政策論争、そしてそれを解説してくれる社説などである。これら以外に、私たちが何を知ることができるだろうか。民主党のヒラリーを支持するメディアは、ヒラリーに有利な内容や写真を掲げ、トランプを支持するメディアはヒラリーの悪い点を報道するが、トランプの悪い点については非常に寛容であったりする。

韓国にとっては当然、ヒラリーよりトランプの安保政策が受け入れ難いこと也有って、韓国の放送はヒラリーに有利なニュースを報道する。メディアの既成観念に騙されてはいけないという、国民の声がこのように記事を書かせているのである。

昨日の歴史は今日の政治として現れ、今日の政治は明日の歴史を作り上げていく。歴史の異変は時として起こり、その波濤はしばら



くの間、渦を巻いているが、再び大きな歴史の流れの中に戻っていく。だから日本の統治下にあって、丹斎 申采浩先生は歴史の重要性を説いたのであった。

ところで、韓国の政治は現在のために英語と科学教育を重要視し、韓国史は公務員試験にも出てくることは無い。そして歴史は、特に暗い歴史は繰り返されている。国を失ったユダヤ人たちにとって、歴史は取り戻す

ことのできない土地と同じ現実であった。国を失い世界に散らばった彼らは、家庭の食卓を囲む際にもその歴史を思い出し彼、らの歴史を守りながら結局は彼らの国を再興させることができた。今日のアメリカの大統領選挙も、アメリカの歴史の中で見渡してみる必要がある。

ヨーロッパの諸国がアフリカと西インド諸島の間で三角貿易を活性化させ、銃、火薬、酒を積んでアフリカへ行き、黒人たちを無慈悲にも連行、奴隸として西インド諸島で売り払い、そこの特産物を積んで自分たちの国へ戻っていった。この奴隸貿易が300年の間、盛んに行われ、アフリカの黒人たちは少なくとも1千500万人が奴隸として捕まり、アメリカへ強制的に移住させられたのである。

農業に労働力が必要であったアメリカ南部に定着したイギリス人は、インディアンより従順で体力もある黒人奴隸を好んだ。清

教徒たちが主に定着したアメリカ北部では産業革命が起こり、労働者が必要となった時、アメリカ歴でも有名な、南北戦争が勃発した。

これは南部の綿花畑で従事していた黒人たちを、北部の工場へ移そうという意図があったからであるとも言われている。強制移住の過程で死んでいった2000万人のインディアン原住民たちと1千500万人の黒人たちからの榨取という、暗い歴史の上にアメリカの華々しい経済成長がなされ、強力な民主主義国家が生まれた。インディアンと黒人たちが経験した苦悩によって、アメリカの政治と経済が成立しているのである。

大学試験より難しい即答式政治試験

1792年に設立した民主党は、奴隸貿易とともにアメリカ経済と政治の指導権を握ったが、奴隸制度を拡張させようとする法案に反対する善良な労働者と農民の支持を得ながらも、1854年に成立した共和党に押されながら南北戦争に敗北した。そして、共和党はリンカーン大統領を押し立て、1863年奴隸解放宣言を行い保守、道徳を掲げる政府与党となった。

このように奴隸解放、あるいは道徳をシンボルとして掲げていた共和党の政権が維持されながら、1929年経済大恐慌のために人々の生活が陰りを見せ、政権与党であった共和党の支持が弱体化していった。そして1932年、ニューディール政策を打ち立てた民主党のフランクリン・ルーズベルトが圧勝し、トルーマン、ケネディー、ジョンソン大統領を排出しながら、民主党が再びアメリカの政治を支配し始めた。続いて第二次世界大戦に勝利、戦後の好景気へと進むにつれ、アメリカを世界最強の国家へと導き、その後の20年間、政権を握った。

しかし経済が良くなるほどに、アメリカの家庭と道徳は荒廃していった。そして、1907年から好景気に湧いていたアメリカの経済が再び停滞期に入り、人々の生活も苦しくなり、家計を圧迫した。行

政府は経済問題のために共和党が、議会では民主党が優勢となった。その後、今までアメリカの大統領は共和党のジョージ・ブッシュ・シニア、その次は民主党のビル・クリントン、そして再び共和党のジョージ・ブッシュ・ジュニア、そしてその後は民主党のオバマが当選し、互いに抜きつ抜かれつしながら今回の大統領選挙を迎えることとなったのである。

神様がいない国民たちにとっては、当然のことながら道徳よりも経済が優先する。毎年クリスチャンが減り続けているアメリカでは現在、特にそうだ。富裕層を増やし経済を活性化させようとする共和党のトランプ氏と、中産階級を助け経済を安定させようとする民主党のヒラリーの間で、アメリカは悩んでいる。今回の大統領選挙でアメリカの国民は、彼らは決して行くことのできない、大学の試験よりも難しい即答型の政治試験を受けるようなものだ。

経済政策について共和党は「繁栄のための自由」を旗印に、金持ちたちにさえ税金の免除と経済規制を緩和し、市場の自律性を保証してこそ企業が発展する。企業を通して雇用を創出し、連邦政府の役割を最小限に縮小すべきであると主張している。しかし、民主党は政府が税金をもつとかけて、国民福祉を国民の隅々にまで分配することが出来るように、政府主導の福祉のための規制、例えば金持ちに増税し、赤字削減をしてこそ、強力な政府の下、雇用を創出することができると言っている。言い換えれば、共和党は企業が責任を取り、民主党は国民を政府が責任を取るということである。

そして今回の大統領選の公約も歴史の中の主張と一致する。奴隸制度廃止を主張し、リンカーン大統領を立てた共和党のトランプ候補は同性結婚反対、中絶反対、そして伝統的な結婚を主張した。一方、民主党のヒラリー候補は同姓愛者達の養子縁組、両性愛者、性転換者と女性中絶権とエイズ患者のための予算計上、その上マリファナ（大麻）の合法化を支持している。ヒラリー候補は、キリスト教は中絶と同性愛について新しく制定された法律に基づいて、信仰を変え

るべきだとまで言っている。

アメリカの有権者の 20 パーセントが白人福音主義のクリスチャンたちであり、彼らの 78% がトランプ氏を支持しているという世論調査が発表された。当然の成り行きである。中絶と同性愛とマリファナ合法化を主張するヒラリー候補を支持することはできない、道徳的なクリスチャンが多いということなのだ。

しかしながら、同性愛と女性中絶法に反対し、伝統的な結婚を支持する共和党候補のトランプ氏はクリスチャンではないが、キリスト教を支持するという公約を掲げている。彼はカジノのビジネスでお金を儲け、多くの愛人を持つ人物だということで、福音主義作家フィリップ・ヤンシーが反対している人物でもある。中産階級が北極で溶ける氷のように消え、金持ちたちはより金持ちとなり、アメリカという国が次第に貧しくなって行き、近いうちに金持ちか貧乏人しかいない国になるだろうと叫ぶトランプ氏は、不道徳な金持ちお父さんと呼ばれている。

ところで、アメリカ政府のやり方に反対するキリスト教は変わらなければならないと主張する民主党候補ヒラリーは、自信が 13 歳の時から通っている教会学生部の牧師を 40 年の間、メンターとして慕い自分はクリスチャンであると言いながらも、宗教についての政策として、中絶と同性愛についてアメリカの法律に従わなければ、教会は制約を受けなければならないと主張している。このように同性愛と中絶とマリファナに賛成する無神論者たちの票を集め、彼女の大学卒業論文も黒人達と不法在留者を扱った「貧困との戦争状態」と題するものであった。国民の母親は演説の中で、嘘をたくさん語つたとする動画が多数存在している。

トランプ候補が教会を尊重するといつても、それによって政治権力に近づこうとする教会が果たして、健全な教会となりえるだろう



か。2000年の教会史が示すように、教会は政治権力に近づくほど生命力を失い堕落していった。ヒラリー候補が本当にクリスチャンだったのかはよくわからないが、キリスト教に対して本当に敵対的な立場をとっている。彼女が当選すれば教会は苦しい立場に立たされることになろう。権力の保護が現在のアメリカのキリスト教に助けとなるかどうか、敵対的大統領が立った時、教会が目を覚ますことになるのかどうかよくわからない状況である。このようにアメリカのクリスチャンの未来は相変わらず混乱しており、難しい状況ではあるが、クリスチャンと無神論者の票が確実に割れたままアメリカの大統領選挙の日は確実に近づいてきている。

北朝鮮の核よりずっと危険な同性愛について、アメリカ国民の選択によってアメリカの大統領とアメリカの政策が決まることになり、それによってアメリカの教会に寄せる波は、世界と韓半島の靈的状況に直接影響を与えることとなる。韓国の安保のための北の核、サーズの問題より、韓国の道徳が崩れかねない危険な状況である。だから韓半島は、アメリカの大統領選のために祈らなければならない。「すべての人のために、王たちと上に立っているすべての人々のために、願いと、祈と、とりなしと、感謝とをささげなさい。それはわたしたちが、安らかで静かな一生を、真に信心深くまた謹厳に過ごすためである」(I テモテ 2:1 ~ 2) †

チ・ヨングンの世を読む／(株)チアンドコムリサーチ代表



先週主要教団の総会が終わった後、ある牧師に会った。「先生！先生の教団で今回の総会の主要議題は何でしたか？」と気になって聞いてみたら、その先生はすぐに反応した。「韓国教会、今日の主要議題は次の世代です。でも、答えが見えないです。」

高齢化、少子化の最近の韓国社会の著しい特徴とともに教員数の減少を見ながら、単に『心配だ』と思ってきたが、その先生の一言が突然目を覚ました。

経営学の父、ピーター・ドラッカーは「人口統計の変化は未来と関連するものの中で、正確な予測できる唯一の事実である」と言った。したがって、次の世代に関する人口変化統計を良く見ると、そこに未来が見え、未来の対応戦略が見えるだろう。

まず、教会学校世代である10~19歳の人口変化を見よう。(表1)

<表1> 国家10代年齢別(全国)秋計人口

(単位:千人、%)

年齢別(全国)	2005	2010	増減率	2015	増減率	2020	増減率	2030
全体人口	47,279	48,580	2.8	51,069	5.1	51,435	0.7	52,160
10代人口	6,535	6,612	1.2	5,589	-15.5	4,700	-15.9	4,456

※統計省総人口調査及び将来人口推計

上記の表を見ると10代の年齢層は2010年を起点にして減少している。2010年まではわずかに増加するが、2015年は2010年比15.5%減少し、2020年には2015年比15.9%ほど減少する見込みだ。人口数では10年間なんと191万人減少するということだ。韓国全体の人口が2030年までは少しづつ増加しているが、10代がこれだけ減少しているということは、60代以上の高齢層がどれだけ増加しているか推察できるところである。

教会学校の数字の方に行ってみよう。最近のイエ長統合教団で、教団内の教会学校の10年間の変動状況を発表したが、その結果は下記の通りである。

<表2> イエ長統合教会学校の生徒数変動推移

(単位:千人、%)

	乳幼児部	小学部	中高等部	合計
2006	113	274	189	576
2009	112	250	196	558
2011	110	211	180	501
2013	97	178	157	432
2015	95	166	147	408
10年間の増減率	-15.9	-39.4	-22.2	-29.2

上記の表は私たちに多くのことを示唆してくれる。各学年別に2006年から2015年まで10年間の増減率を見ると、小学部は-39.4%、中高等部は-22.2%下落していて、合計16万1千人ほど減少している。言い換えるなら、1年で平均1万6千800人ぐらいが教会から消えるということだ。以上の教会学校（小学部＋中高等部）の10年間の変化を、上の10代人口変化と比べると10代人口は同一期間内に-14.5%減少している反面、教会学校は-19.2%減少しており、教会学校の人口現象がより深刻であることがわかる。このような現象は、上記資料の当事者であるイエ長統合教団に限るのではなく、すべての教団で同じような現象が起きているだろう。

統合教団統計委員会では、最近減少した教員の77%が子どもと青少年層に集中しているという。この教団の教会数は2015年基準8千843だが、教会学校がない教会が3千17に上り、全体教会の34.1%を占めている。教会3つのうち1つは、教会学校がないということを意味している。同じような規模のイエ長合同教団の場合、教会学校のない教会が統合教団よりも多いと発表されたこともある。さらに、教会学校がない教会は毎年増えているのが実情である。

去年イエ長統合教団で総代を対象に調査を実施した結果、最も早急に伝道すべき層として『20歳以下の子ども・青少年層』が58%で他の年齢層より圧倒的に高かった。教会学校の成長のために備えるべき動力としては、『親世代の教育訓練』という答えが42%と最も高く、教会成長と影響力の拡大のために強化すべき領域について、『次の世代への関心』という答えが55%と断然高かった。

また、8月イエ長合同教団で総代を対象とする教団政策調査で、総会の優先政策課題について、総代は『次の世代及び教育』を35%と最も高く指摘した。しかし興味深いことは、同じ答えに対し牧師は31%、長老は38%と牧師より長老層で次の世代の深刻性を感じているということが明らかになった。最近長老神学大学のパク・サンジン、イ・マンシク教授チームが主任牧師／教育伝道師／教師775名を対象とした調査を発表した資料を見ると、教会学校の危機の最も大きな原因是、親(54%)、教育担当教役者(37%)、主任牧師(37%)、教会学校教師(28%)などの順に、親の責任が最も大きいという結果になっている。

以上の調査結果を要約すると、韓国教会が最も気にすべき政策課題は『次の世代』であり、その原因と発電動力とともに『親』ということだ。これを裏付けしてくれるもう一つの資料がある。キリスト教連合新聞でクリスチャン中高生500人を対象に、2014年実施した調査で『自分の信仰生活に最も影響を与える人はだれか』と質問した。

その結果『母』が47%で圧倒的に高く指摘され、その次が『教会の友人／先輩・後輩』12%、『牧師／伝道師』12%、『父』10%、『学校の友人／先輩・後輩』5%、『教会学校の教師』3%だった。この結果で母の影響力が絶対的に高い一方、教会学校の教師が3%に過ぎないのは非常に衝撃的である。

すべからく現在の韓国教会の最も大きな関心は『次の世代』である。しかし実際、牧会の現場ではこの課題の答えが見つからないようだ。高齢化社会に差しかかる韓国社会で低年齢層の人口減少、学生の熾烈な学業競争、代替宗教の活性化による宗教人口の減少など、環境的要因が強く韓国教会を圧迫しているためである。

次の世代への代案

しかし、答えは近くにある。そのうち一つが親である。次の世代問題の終結者であるため、子どもの信仰教育の主体として親を立てるべきだということだ。特に、母を対象とした教育、すなわち正しいキリスト教の価値観、キリスト教の世界観教育が韓国教会を全方位的に支えないといけないだろう。親の教育を通して聖書中心、神を中心の価値観が幼いごろから形成され、学業問題、世の遊び文化などを大胆に相対化できる健全な信仰の上に立つ青少年を育てなければならない。その他、大人と一対一のメンタリングを提供する方法、平日にできる創造的共同体遊び／イベント開発が必要で、一方主任牧師または教育担当教役者の関心が一部の信仰の良い青少年に集中せず、信仰の弱い青少年に広がる牧会方法などがあげられる。

幸いなことに、みんなが次の世代への危機意識を共有しているため、韓国教会が力を合わせて一つになっていくつかを絞り、集中して『次の世代プロジェクト』を進めていくなら、神様も積極的に助けてくださるだろう。親教育、教師教育、青少年／青年文化に対する理解、教会の民主化など、絶えず苦痛な自己改革により韓国教会がこの苦難を克服していくことを祈る。†

■クリスチャンの財政管理

チョン・ビヨンイル／代表／EPS管理者経済管理教室、政治学博士

クリスチャンの遺産と相続



「善良な人はその嗣業を子孫にのこす」(箴言 13:22)

旧約時代には土地の所有権を子どもや子孫に残すことを重要視していた。しかし、今の状況は少し異なる。一般的に親と別居していて、自分が受けた教育、仕事、技術、貯蓄や投資などにおいて、自立した経済的地位を確保しながら生きている。このように、子どもたちに以前と異なる遺産や相続における価値は、彼らの生活水準を高めたり、生活に急激な変化をもたらす場合が殆どだ。これに関するクリスチャンの認識と概念は、聖書的観点から正しく定立される必要がある。

第一に、遺産と相続は神の御言葉を相伝する、信仰者としての人生にならなければならぬ(詩篇 78:1～9、申命記 6:1～9)。この遺産は、贖われた者たちがこの地で永遠に対する希望を持たせる、今生と後生をつなぐものである。親の正しい信仰と方向、そして生き方の模範は、いかなるものより価値ある遺産となるはずだ。

そういう面から、家庭礼拝は永遠の観点を相続する実践判だ。御

言葉を分かち合うことによるキリストにあっての統一は、たましいがいつも恵まれていると同じく、すべてのことに恵まれ、すこやかになる人生を保証する。勘違いして、この世ですべてのことに恵まれ、栄えることが私たちの追求する世俗的欲求になった場合、それは自分が主人となっているのである。そういう心配から、まずたましいが恵まれることを先に言及したのである。つまり、神との関係——神の似姿を回復していく聖の再発見、キリストと一致する人生の回復を望んでいるのである。それは、神が主人であることと、私たちは管理者であることを自覚する、関係回復を意味する。そうすると、神は私たちが主の栄光のために用いられる道具として選び、すべてに感謝し健やかに暮らすことを保証してくださる、という事実だ。

第二に、遺産と相続におけるクリスチャンの基準は、平等に分けることと正しく分けるこの相違点を確実に訓練させておかなければならぬ。これは、ダラント比喩を通して確認できる。主イエスは正直で誠実な投資戦略家を探しておられ、効率的な投資をなさった方だ。

そして、後に地に埋めた一ダラントを、三ダラントではなく五ダラントに投資した人に与えられた。何を意味しているだろうか？主人の財産を最もよく管理する人に管理者としての使命を委任されるという意味だ。私たちはどうだろうか？人の心は10本の指を噛んで痛くない指はないといって、子どもたちに公平に分け与えようとするが、それは人情の心だ。多くの親は良い意味で、成長した子どもにお金を残すが、これが深刻な葛藤を招くこともある。自分の財産は子どもたちとともに安全であろうか？でなければ、子どもたちが私の財産とともに破滅するだろうか、問い合わせてみよう。私たちの主人は神であると、救いの確信とともに受け入れるなら、自分に委任された神の財産を相続する際、最もよく管理する子どもに正しく分配しなければならない。成長した子どもたちに遺産と相続に関

する計画について、家庭礼拝を通して前もって説明しておく。そうすることによって、子どもたちに余計な期待を持たせずに済み、後に子どもたちの恨みを買うこともなくなる。神のものを正しく分け与えるということも伝えなければならない。平等に無知の分配による豊かさは、浪費につながるだけでなく、子どもたちに中毒、怠け、不道徳性を助長する。終局には、財産によって破滅に至らせることもある。「正しくない遺産はそれを相続する人を破壊させ、自滅する傾向がある」と、ヘンリー・フォードの言葉を想起させる必要がある。

第三に、残すものと捧げるものの相違を分別しなければならない。筆者の知人である牧師は靈的、心的、物質的に施せる能力のあるときまでだけに牧会する、という一念をもって働いていた。彼は、自分の教え子たちが生活に困っていると、生活費や子どもたちの学費を出して上げていた。しかし、わが娘や息子の学費は一度も自分の手で出したことがないという。それで、彼はそれが心残りとなり、天に召される前の遺言に、「最期の香典で息子の学費を出して上げてほしい。残りは島の宣教師への後援や牧会者未亡人の子どもたちの奨学金として渡してほしい」と頼んだという。更に彼は、遺体をセブランス病院に寄贈し、入棺式も出棺式もなく、感謝礼拝だけを捧げながら天に召された。

私たちはこの地に何を残したいと願っているのか？子どもたちに何を遺言として残し、天に召されたいのか？この地で生きている間、残すものと天に捧げるものを賢明に分別することは、クリスチャンとして管理者的人生を生きるにあって、非常に重要な決断だ。私たちの必要を糧として与えてくださることに感謝し、私たちが望む欲求を節制し、永遠の御国に貯蓄する『仕えや捧げや分け合う人生』——このバランスの取れた人生（Ⅱコリント8:13～15）の実践を、神は、遺産と相続の聖書的観点として定立するよう、今や、私たちに要請しておられるのである。†



資本主義は 悪いものですか？

私の父デ・ションドク神父が、初めて聖書的経済観について記述してから、数十年が経ちました。父はそのコラム「山奥から届いた手紙」において、このテーマを何度も扱っています。私も何年か前に聖書的経済観について、コラムを通して、土地問題、土地の所有や税金についてたくさん書いてきました。土地の所有と使用について、聖書的観点から最も多く引用した聖書箇所はレビ記25章23節です。

「地は永代には売ってはならない。地はわたしのものだからである。あなたがたはわたしと共にいる寄留者、また旅びとである。」

この箇所の要点は、土地は神が創造されたもので、私たちがこの地に留まる間だけ使用するよう、私たちに与えられたものだという事実です。そのため土地は他の財産や資産のように売買するものではありません。なお、土地の資産価値に対して税金が課せられることについては、神の原理を現代に適用する方法を取り扱ったことがあります。

土地は神が創られたものであり、いかなる土地も同じものではなく、その位置や社会的評価によって土地の価値が定められるものではないことを基本概念としています。このような理由から、土地の特定部分に対して、個人が排他的な権利を持つと考えるのは正しくあ

りません。しかし、土地の価値に該当する税金を社会に支払っている場合に限り、個人はその土地を使用する権利を持つことができ、その権利を遺産として残すこともできます。けれども厳密にいえば、それは税金ではなく土地の使用料ということになります。

今回は、経済について、普段とは別の視点である聖書的観点から述べたいと思います。資本の生成と使用、言い換えれば資本主義についてみてみたいと思います。資本がいかにして土地や労働につながっていくのか——聖書的・経済的観点からみてみましょう。

最近、経済に対する論議が本当に多いです。聖書的観点や経済的原則を正しく理解せずに発言している場合がよくあります。多くの人たちが「資本主義は悪である」と、話しています。しかし、彼らの話を聴いていると、実際のところ彼らは自分自身が述べていることを完全に理解していない、と感じることが多くあります。その中でも、特に興味深いのは、聖書的土地政策、あるいは「ジョージ主義」を擁護しつつも、資本主義は悪というものです。

これからこの問題について、いくつかの紛らわしい部分を明確にしながら、考察していきたいと思います。

資本主義はキリスト教を必要とする

まず、「資本主義とはいいったい何なのか」——経済理論では「生産の要素」について取り扱いますが、土地、労働、そして資本がその要素になり、土地と資本とを明確に分けています。これは重要な差違です。資本とは、一般的に事業に投資し、富を生産することができる資産として考えられています。資本を持っていて、資本を生産に投資する人が資本家です。

しかし、その資本はいったいどこから生まれたのでしょうか？それは、利益を生み出す財貨を生産した人たちの労働の結果です。この利益が蓄積され、工場を建設したり、大きな機械を購入したり

など、事業に再投資することに使われます。資本が余剰労働、剩余価値を生む資本をさらに積んでいくのがわかります。これは悪いことではなく、実際によいものです。ダムと同じようなもので、いざ必要な時に使えるように、残りを蓄えておくのです。ダムは、農作物に水を安定供給できるように、雨季の間に水を貯めておきます。富とは、残った利益を蓄積したものです。これは社会が成長するため、人々が生きるため、干ばつを乗り越えるためなど、多くの場合で必要となるものです。

ならば、資本主義とは何でしょうか？ 人や社会に価値のある富を生産するために、蓄積された労働を使うことです。これは悪いことでしょうか？ そうではありません。ある人々は良くも悪くもないという人もいます。道徳的に中立ということでしょう。あるいは、社会が進歩し、人間が現代世界で生きていくために不可欠なものという人もいます。

脱北者の一人であるファン・ジャンヨプ先生が存命中の何年か前に、私は先生に会う機会がありました。彼は北朝鮮の最高位幹部として、北朝鮮の社会主义と主体思想の基本概念を確立した人でした。しかし、韓国に亡命してからは、北朝鮮体制の悪、特に主体思想や社会主义の悪を知らせるために最善を尽くされました。彼と対話をした時——当時の彼はクリスチヤンではありませんでした。亡くなる前にイエス・キリストと出会い受け入れたと信じるばかりです。——彼はこのように話されました。「社会主义と共産主義の回答は資本主義にある。けれども、その資本主義は道徳的土台がないため、キリスト教を必要とする」と。私はそれが非常に明晰な考察だと思いました。特に、彼がまだキリスト教を受け入れていない状態ではなおさらです。

聖書には何と記されていますか？ 聖書には、事業を行う上で『正直』と『誠実』が大変重要だと書いています。

「あなたがたは正しいてんびん、正しいおもり石、正しいエバ、正しいヒンを使わなければならない。わたしは、あなたがたをエジプトの国から導き出したあなたがたの神、主である。」（レビ記 19:35～36）

「あなたの袋に大小二種の重り石を入れておいてはならない。あなたの家に大小二種のますをおいてはならない。不足のない正しい重り石を持ち、また不足のない正しいますを持たなければならない。そうすればあなたの神、主が賜わる地で、あなたは長く命を保つことができるであろう。すべてこのような不正をする者を、あなたの神、主が憎まれるからである。」（申命記 25:13～16）

このようなメッセージが他にも四箇所あります。箴言 16:11、20:10、20:23、そしてミカ書 6:9～23です。ですから、聖書にはこうしたメッセージが6回記されています。6回も記されているのは、これが神にとっていかに重要であるかを教えてくれています。正直でない事業は悪であり、不誠実な資本主義も悪です。しかし、産業や都市化された社会においては、事業と資本主義、この二つが不可欠です。

正直に賃金を支払うことの重要性を示す聖書箇所もあります（レビ記 22:13、マラキ書 3:5、ルカ 10:7、I テモテ 5:18）。雇用主が働く人と約束した賃金をきちんと支払う義務についても書いてあります（マタイ 20:1～15）。社会的弱者を利用してはいけないということも書かれています（出エジプト 22:21～27、マラキ 3:5）。

これらの御言葉は、いかなる経済活動に携わっていようが、神は私たちの行動に責任を問われるという事実を明確に表しています。神は悪の行動に対して罰せられるでしょう。そういう悪——不正直、盗み、抑圧など——は結局、社会を破壊するからです。だから資本主義の経済には道徳的土台が必要なのです。正直と誠実が資本主義の本質とならなければなりません。

私はここまで、正直と誠実の重要性について述べてきました。けれども、ここからはそれ以上のもの、つまり、土地と資本の根本的な差違について言及したいと思います。これも聖書の中から見出すことができます。このコラムの最初に引用している聖書箇所である、レビ記 25 章をもう一度考察してみたいと思います。すべての土地は神のものという箇所の後に、もしイスラエル人が貧困のゆえにその家を手放すしかなくなり、売り払った場合のことが書かれています。その人は、自分や親戚に十分なお金が入ってくれば、いつでもその家を再び買い戻せる、と書いてあるでしょうか。それだけの支払い能力がなくても、ヨベルの年になれば、その家は何の対価も払わず再び自分のものになるでしょうか？ 同章 29 節を見ると、少し違うことが書いてあります。

「人が城壁のある町の住宅を売った時は、売ってから満一年の間は、それを買いもどすことができる。その間は彼に買いもどすことを許さなければならない。満一年のうちに、それを買いもどさない時は、城壁のある町の内のその家は永代にそれを買った人のものと定まって、代々の所有となり、ヨベルの年にももどされないであろう。」（レビ記 25:29～30）

城壁の中にある家は労働の結果です。それは神が造られたのではなく、人間が造ったものです。家は土地の上に建てられるのですが、その家は相続される土地の一部としてはみなされません。なぜなら、城壁の中にある家は、その人の生存のためのものではないからです。レビ記 25 章 31 節をみてください。城壁の中の家は資本です。それゆえ、建てた人の所有となり得るし、あるいは彼がその家を売れば、適切な法的手続きを経て購入した人の所有になります。



真実に、かつ正直に

ここで基本的な原則は、神が（自然を通して）お造りになり、贈り物として人間に与えられた土地は、所有したり売買したりするものではないということです。一方、私たち人間が造ったものは私たちのものです。私たちが誠実に、かつ正直である限り、自由にすることができます。使徒行伝 5 章 4 節を見てください。

ですから、何が悪になりますでしょうか？ 聖書的観点からすると、資本主義と混同されることも多いのですが、実は資本主義ではない二つの悪があります。ひとつめは、古くからある「地主制度」で、これは偶像崇拜の形態の一つです。人間が神の所有である土地を許可なしに統制し、何も投資することなく、労働や社会が生み出した価値から利益を取り上げます。これこそが、レビ記に書かれた原理を違反するものです。ふたつめは、重商主義（マーカンティリズム）です。これは 16 世紀に初めて提唱された経済理論で、現在まで全世界的に根強く続いている。これは、官僚や政府の利益だけでなく、土地や資本を所有する富裕層の利益のために、政府と企業が一緒に市場を動かしていきます。これらについては、次回以降で詳しく記述したいと思います。†

あけまして おめでとうございます

本年もよろしくお願ひいたします。

出版部一同



発行：純福音東京教会・出版部

【翻訳】：高峰英姉妹、林俊秀教育生、間杉綾乃執事、朱水晶執事、李珍執事、
山野永理勧士、朴秀珍執事、趙芝賢伝道師、澤田義則執事、金景娥執事、

朴宰完按手執事、金澤由紀子勧士

【日本語校正】：松谷恵理執事、佐野綾執事、間杉綾乃執事、金澤由美姉妹、山本昇平兄弟、
山口裕功執事、吉田綾子執事、笠原幸子執事、武石みどり執事、向川誉執事、
澤田義則執事

【印刷・製本】：間杉典生按手執事

【再編集】：金澤由紀子勧士
